

園芸タイムリー情報

《9月中・下旬版》

平成29年9月15日発行 第9号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017

Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp



HomePage

http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通



- ①コナガ・ヨトウムシ類・アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類の発生には引き続き注意しましょう。
- ②今後、日中の急激な昇温や夜温の低下に対し、品目ごとに適温確保を図り生育促進に努めましょう。また、換気によりハウス内の湿度を低下させ、病害の発生を防ぎましょう。
- ③突発的な降雨で雨水がハウス内に吹き込むことがあります。気象状況に留意しハウスの開閉を行いましょう。また、ほ場への浸水防止対策として、周囲に明きよ、排水溝等を設置し速やかな排水に努めましょう。
- ④暴風が予想される際は、事前にハウスの点検、補強を行いましょう。ビニールが緩んでいると強風にあおられ、被害が生じやすいので、取り付け金具・ハウスバンドの締め直し、側杭の補強等を行いましょう。
- ⑤農薬の安全使用に細心の注意を払いましょう。希釈倍率や使用時期を守り、適切な保管、管理を行いましょう。また、飛散防止対策を実践し、事故発生を未然に防止しましょう。
- ⑥農作業事故等が発生しないよう、機械整備や体調管理には十分留意しましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

作物名	アスパラガス	作物名	あぶらな科野菜全般
病虫害 生理障害名	 <p>食害で白くなったアスパラ</p> <p>高密度で黒色化</p>	病虫害 生理障害名	 <p>コナガ成虫</p> <p>コナガ</p> <p>コナガ幼虫</p> <p>防虫ネットの隙間</p>
ヨトウムシ類		コナガ	
発生状況		発生状況	
発生に注意		少発生	
発生時期		発生時期	
8月中旬～ 第2世代		5月下旬～	
発生の状況・要因		発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、第2世代幼虫の発生が予想されるので注意する。 ・幼虫は擬葉を食害するが、大発生し擬葉を食べ尽くすと、茎や側枝の皮を食害するためアスパラガスのほ場が白く見える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫が葉の表皮を残して食害する。 ・5月下旬に成虫の発生が確認された。 ・6月下旬に幼虫の発生が確認された。 ・9月は減少傾向であるものの、9月下旬まで被害の発生に注意が必要である。 	
対 策		対 策	
<ul style="list-style-type: none"> ・防除適期を逸すると被害が拡大するため、発生初期に確実に防除する。 ・大発生し被害が大きいほ場では、来年の春芽収穫が過収穫にならないように気を付ける。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●アフーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●フェニックス顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 		<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内外のあぶらな科雑草をこまめに除草する。 ・防虫ネットの効果が高めるため、侵入口となる隙間を作らないよう設置する。トンネルかけの場合は、雑草によりネットが持ち上がるため、除草も併せて実施する（写真右参照）。 ・品目により薬剤の登録状況が違うので、ラベルを確認してから使用する。 ・ジアミド系（プレバソソフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、ジアミド系薬剤使用時は防除効果の確認をする。 	

作物名	きゅうり													
病虫害生理障害名														
褐斑病														
発生状況														
少発生														
発生時期														
7月中旬～														
発生の状況・要因														
<ul style="list-style-type: none"> • 葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。 • ベと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、表面にかびを生ずる。 • 生育適温28℃、高温多湿条件で発生する。6～10月に多発する。 • 草勢が衰えている場合に多発しやすい。 • ハウス内の土壌や資材に菌が付着し、翌年の発生源となるため、以前に発生したことがあるほ場では特に注意が必要となる。 														
対策														
<ul style="list-style-type: none"> • 適正管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。 • 昨年発生したほ場では、予防防除を行う。 • ほ場をよく観察し、発病葉は摘除する。 • 薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一系統薬剤は連用しない。 <p><防除の一例></p> <table border="0"> <tr> <td>●ダコニール1000</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>8回以内</td> </tr> <tr> <td>●ジマンダイセン水和剤</td> <td>600倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> <tr> <td>●セイビアーフロアブル20</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> </tr> </table>			●ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	8回以内	●ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫前日まで	3回以内	●セイビアーフロアブル20	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
●ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	8回以内											
●ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫前日まで	3回以内											
●セイビアーフロアブル20	1,000倍	収穫前日まで	3回以内											

作物名	トマト類																					
病虫害生理障害名																						
灰色かび病																						
発生状況																						
少発生																						
発生時期																						
6月上旬～	<p>茎葉に発生したカビが果実等への感染源となる</p>	<p>果実に発生したゴーストスポット</p>																				
発生の状況・要因																						
<ul style="list-style-type: none"> • 発病適温は20℃前後の低温時で、多湿時や作物体表面が濡れていたり、茎葉の過繁茂で風通しが悪くなった場合に発生が増える。 • 葉かび病やすすかび病による枯死部分や摘芽部等の傷口から発生し、果実では花落ちやへたから菌が侵入する。 • 果実でのゴーストスポットも散見されている。 • 夜温の低下による結露で植物体が濡れやすく、発生しやすい条件となる。 																						
対策																						
<ul style="list-style-type: none"> • 換気や摘葉を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 • 花落ちや被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 • 薬剤耐性菌の発生を避けるため他病害での使用薬剤を含めたローテーション防除とする。 <p><防除の一例> トマト・中玉トマト・ミニトマト共通</p> <table border="0"> <tr> <td>●ダコニール1000</td> <td>1,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>2回以内</td> <td>(トマトは4回以内)</td> </tr> <tr> <td>●カンタスドライフロアブル</td> <td>1,000～1,500倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●アフエットフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ カンタスとアフエットは同系統 (SDHI剤) なので連用を避ける。</p> <table border="0"> <tr> <td>●ファンタジスタ顆粒水和剤</td> <td>2,000～3,000倍</td> <td>収穫前日まで</td> <td>3回以内</td> <td></td> </tr> </table>			●ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	(トマトは4回以内)	●カンタスドライフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内		●アフエットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内		●ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内	
●ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	(トマトは4回以内)																		
●カンタスドライフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで	3回以内																			
●アフエットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内																			
●ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内																			

作物名	トマト類	
病虫害生理障害名		
うどんこ病		
発生状況		
少発生		
発生時期		
6月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 葉の表面にうどんこを振りかけたようにかびが密生している。 激しく発生すると果柄・へたなどにも発生し、商品価値が低下する。 過繁茂になると発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場を乾燥させすぎない。 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例> (トマト・ミニトマト共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 (トマトは4回以内) ●パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●アフェットフロアブル 2,000~4,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●ハーモメイト水溶剤 800~1,000倍 収穫前日まで 回数規定無し 		


作物名	花き全般	
病虫害生理障害名		
灰色かび病		
発生状況		
中発生		
発生時期		
7月中旬～		
発生の状況・要因		
<p><現在の発生状況></p> <ul style="list-style-type: none"> きくでは、わき芽取り除いた跡、摘蕾跡から感染する。 シヌアータはがくのつけ根や採花後の切り口に発生する。 今後、降雨による高湿度条件により、発病が蔓延する可能性が高いので注意する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウスの換気、通気性の改善 きくでは、ハウスの裾はできるだけ開放し、またシェードの裾も15cmほど開ける。 午後からのかん水は控える。 発病すると蔓延が早いので、発病前に定期的な予防防除を行う。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○セイビアーフロアブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内 ○フルピカフロアブル 2,000~3,000倍 発病初期 5回以内 ○ポリバリン水和剤 1,000倍 発病初期 8回以内 <p>※莖葉部だけではなく、地際部にもしっかりと散布する。</p>		

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
 なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
 ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域（旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町）向けに作成されています。
 気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
 （不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません）
 ※掲載されている農薬情報は、平成29年8月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■
 【農作業事故防止編】 ー農作業事故防止は日頃の安全確認からー

- 農機の点検や清掃、異物除去等を行う際には、必ずエンジンを停止しましょう。
- 危険な場所（ほ場内や施設内等）が無いが、日頃から確認を行いましょ。
- 危険を伴う作業（草刈りや高所作業等）を行う際は、安全確認を必ず行いましょう。
- お互い声かけできる範囲内で作業を行い、なるべく「ひとり作業」は控えましょう。



点検整備は、必ずエンジンを停止してから